

第5回学校再編計画策定委員会会議録

日時：令和元年6月28日（金） 10時00分から11時45分まで

場所：島田市役所第3委員会室（北）

出席：教育長、教育部長、市長戦略部長、行政経営部長、学校教育課長、島田第一小学校長、伊太小学校長、相賀小学校長、神座小学校長、伊久美小学校、初倉小学校長、湯日小学校長、初倉南小学校長、島田第一中学校長、北中学校長

1 開会

2 あいさつ（教育長）

前回の会議の後、各地区に説明会に入っており、近々では伊久美小学校に行ってきた。厳しい意見をいただくことになろうかと思っていたが、強い反発もなく、会を重ねるごとに理解が深まってきたものととれた。一方で北中学校現1年生の保護者からは、統合時に受験を迎えるなど心配の声が多く、北中1年生だけを対象とした説明会を行ってほしいとの要望もいただいた。

計画（案）については、パブリック・コメント募集を前に構成を変更した。これについては、今から事務局が説明する。より保護者や地域の皆様の意向に沿ったものにしていきたい。

3 学校再編計画（案）説明会報告について（事務局説明）

5月21日に北部ふれあいセンターで開催した北部地区説明会には、113人の保護者、地域住民等が参加された。説明会は、はじめに計画案作成までの経緯と計画案の内容を説明し、その後、質疑応答という流れで進めた。北部地区で強かった意見は、北中学校現1年生の保護者の皆様からのもので、統合時に3年生（受験生）となる生徒たちへの負担についてであった。「北中学校に入学してから、統合時期を示されても困る」という気持ちが一番だと感じた。なお、開催後に回収したアンケートでは、「よく理解できた」と「ある程度理解できた」と回答した人が56人で、60%以上が理解を示した。

5月28日に初倉公民館で開催した初倉地区説明会には、98人が参加された。昨年度来、示してきた3校同時統合案がなくなったため、初倉南小保護者からの強い反対はなくなった。一方で、今後実施予定の「小中一体校の調査・研究の中に、保護者も入れてほしい」との意見をいただいた。

湯日小については、現1年生の保護者から「初めて聞いたが、統合ありきのようを感じる」との意見をいただいたが、現2年生以上の保護者には昨年度から意見交換会を行ってきており、「理解できた」「ある程度理解できた」が70人で、85%以上が理解を示した。

この他、6月14日に北中学校区、6月19日に伊太小学校区、6月20日に伊久身幼稚園、6月26日伊久美小学校区で説明会を開催した。

ここで、片浜小学校と相良小学校の統合について牧之原市に経緯等を聞いてきたので、併せて報告する。片浜小では、統合することを決定した後に学校間交流が始まると、交流活動を行って帰宅した児童たちから「楽しかった」との言葉を聴き、徐々に保護者の不安が薄れ、子供たちのためにも思い出に残る閉校式や記念誌にしようとする協力的になってくださったとのことだった。さらに、統合後に児童からとったアンケートでは、友達がたくさんできて良かったなど、90%が「統合して良かった」との回答になった。

4 学校再編計画（案）について

これまでは、策定委員会の報告書として計画案を作成してきたが、今後実施するパブリック・コメントでは、教育委員会の案として募集するため、表紙等変更されている。また、計画の中にあつた経緯については資料という扱いとして、計画とは別にさせていただいた。

今回の計画案で大きく変わった箇所は5ページからで、考慮すべき事項と対策を示すことにした。説明会で出た質問や意見に対する具体的な回答を掲載することにより、保護者等の不安解消と予算獲得への意欲を表すものである。保護者や地域に寄り添った計画にするために、この項目について本委員会で議論してほしい。

5 協議状況

委員 3ページについては、提言書より抜粋ではなく、教育委員会の方針として「小学校については一学年概ね20人を切る場合、中学校についてはクラス替えができなくなった場合、早期に適正規模化を図る」にした方がよい。

事務局 パブリック・コメントでは本計画案だけでなく、資料として経緯や在り方検討委員会と教育環境適正化検討委員会の提言書をセットで閲覧できるようにするため、「提言書より抜粋」という言葉を削除してもかまわないといえる。

委員長 全国的な調査では、適正規模化の最も多い基準が20人を切った場合、次に多いのが単学級となった場合、3番目が10人を切った場合である。島田市としての考え方となる重要な部分であるので、抜粋ではなく、小学校と中学校の適正な教育環境を分けて表記することにする。

委員 今後10年間の各校入学予定者数も掲載して、20人を切ることを理解してもらったほうが良いのでないか。

事務局 中学校については20人基準ではなく、また、私学等への進学も考えられるため、それでも構わなければ掲載できる。

委員 複式学級に対しては敏感な保護者がいる。統合は悩むが、複式は解消してほしいという保護者は多い。このため、人数の推移よりも令和5年～6年には神座小学校や伊太小学校でも複式学級が始まるということを文言で掲載したほうが伝わると思う。

委員 基準だけ載せてしまうと、川根中学校も単学級なので早期の適正化が必要となってしまうが。

委員長 提言書では、地域性も考慮するとなっているため、このあたりの文言も掲載したほうが良いであろう。

委員 いずれにせよ、提言書より抜粋という言葉に掲載する必要はなさそうだ。提言書をもとに、策定委員会で学校再編に向けた方針を決めたという示し方にしたらよい。

委員長 共通理解できたので、策定委員会の基本的な方針という形で修正する。

委員 新たな時代にあった教育を展開するというところに期待する保護者が多かったもので、そのような文言も加えてほしい。

委員 「統合して良かったと思える学校にしてほしい」という意見も出ているので、ぜひ夢の膨らむ言葉を入れるべき。

委員長 盛り込むようにする。

委員 対策の中に、統合時に2年生になる生徒は統合後に使用する制服を購入していただくと書かれているが、北中学区の生徒には兄弟のおさがりをあてにしている人もいると思われる。また、既存の部活動については統合前から希望に応じて合同練習や合同チームを実施できるとなっているが、これだけを見ると令和2年の北中1年生は島一中の部活動に入部できると勘違いしそうだ。

委員長 制服については、現1年生については支給または貸与で保護者負担を軽減することで市長にも理解していただいた。しかし、これから入学する子については、統合後に使用する制服を購入していただく。その代わりに、令和2年中はおさがりの北中の制服を着ても良いこととする。部活動については、中体連の決まりだけでなく、個人スポーツや団体スポーツの違いで合同チームの編成を認められないこともあるので、きちっと説明していくことが大切である。

委員 部活動の部分は、冒頭を「両校に開設された部活動」とし、希望に応じての部分を「実態に応じて」に変更すればどうか。

委員長 誤解を減らすため、より具体的になるように修正する。

委員 運動会や参観などで保護者が来校する際の駐車場については、設置は難しいので、努めますという表現でも掲載しておいたほうがよい。

委員長 島一中や島一小のグラウンドを開放するなどして調整できると思うので、「努めます」の表現で保護者に理解していただくことにする。

委員 スクールバスについては、距離基準にとられることなく柔軟な対応をすくなっているが、これを認めることで他校からも乗車したいという意見が出てこないか。

委員長 あくまでも統合により通学先が変更になる児童生徒に限るものである。統合する学校の子たちへのインセンティブとしての対応である。

委員 これは補足だが、現在島一中では自転車通学を認めていないが、今回の統合を機に横井町の生徒にも自転車通学を認めるかどうかを検討する予定である。

委員 計画に盛り込める内容か分からないが、統合時の教員配置と併せて支援員を増やす対応や、統合決定後も学校予算が先細りにならないことを示したい。

委員長 耐震性のない校舎や体育館は、統合後も避難所等になるので、工事しないわけにはいかない。また、備品等も新しい学校に持っていくつもりで、きちっと予算を確保していく。このあたりは、説明で対応するものであろう。

委員 特認校制度について、いつから他校に移るのか載せられないか。

委員長 これについては、できるだけ早い対応を考えているので、間に合えばパブリック・コメント後に書き加えたい。

委員 ガソリン代支給については掲載する必要があるのか。

委員長 実際に市全体まで広げた制度で、今でも支給できる内容なので掲載する。

委員 現在、湯日小では登校班の集合場所まで保護者が送ってきている例があり、増えてこないか。湯日小でも申請できるのか。

事務局 自宅から学校までの距離が4km以上であるのなら、乗降場所までの距離について申請可能である。

委員 子どもたちや保護者に伝えることは統一する必要はないか。

委員長 学校ごとに計画があると思うので、パブリック・コメント募集が始まったらいつでも良いので学校に任せる。最後に提案だが、通学手段の部分に「防犯灯の設置など」と加えたい。また、ストレスのかからないの部分に「ストレスが軽減する最善なクラス編成」に、伝統的な教育を「特色ある教育」に修正したいがよろしいか。同意いただいたので、そのように修正する。

6 閉会